

## 2023 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	越前市の北部に位置し、併設事業には、デイサービス、認知症対応型デイサービス、訪問介護、居宅介護、サービス付き高齢者住宅、グループホーム、地域包括支援センターがあり複合型の施設となっています。地域との繋がりを大切にすることを重視し、地域に向けて、認知症カフェや地域との祭り、在宅サービスの悩みや情報交換の場として家族向けに家族会なども開催しています。 『あなたらしさいつまでも』を介護理念とし、生協10の基本ケアのケア方針を通じて、その人らしい生活を取り戻してもらうための支援を行いながら、“普通の暮らし”を取り戻す支援を目指します。地域の方も協力的で区長、シニアクラブ、民生委員との連携もとれています。地域の防災訓練、社会奉仕などの参加や近くの高校と、毎年、交流学習も実施しています。
事業所名	県民せいきょう小規模多機能ホーム 丹南きらめきハウス	管理者	木谷 美紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	2人	1人	0人	4人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画(2024年度)
A. 事業所自己評価の確認	ご家族や地域の方に事業所の取組みが把握できるように、広報誌の記載や、SNSでの発信をしていく。またそれが継続できるよう、担当を決めて具体的に取組めるようにする。	広報誌の記載や、InstagramなどSNSでの発信を行い事業所での取組みが把握できるようにした。また、目指したことが継続できるよう担当を決めて共有や取組みをした。	添付された資料では判断できない。	ご家族や地域の方に事業所の取組みが把握できるように、広報誌の記載や、SNSでの発信をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・利用者様が個々にくつろげるような環境作りや、感染症予防の為、密にならないような工夫をして心地よく過ごせるようにする。 ・新規のカンファレンスの時などに間取り図や写真を使用して雰囲気伝わりやすいように説明する。 ・動画作成などを行い、幅広く色々な方に周知していく。	机やソファ等密にならないように配置を工夫しながらそれぞれが心地よく過ごせるような環境作りができた。カンファレンスではパンフレットや写真などを利用して雰囲気伝わりやすいよう工夫した。	・高校生の姿を見かけた事もあります。 ・事業所内のおいや音は気にならないが物が脇の方にあるのが気になった。はみ出ていると引っかけて危ない。 ・デュオへの道に傾斜があって車椅子だと持って行かれそうになる。	・ご利用者が個々にくつろぐことのできる環境作りを声をききながら作成する。 ・ご利用者の動線の邪魔にならないようなものがないか、動作環境を作っていく。 ・外の危険な環境は、声をあげながら、改善につなげるよう働きかけを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	継続して感染対策行いながら、地域イベントなどに利用者様と共に参加していく。 一人暮らしの方への支援については地域の方との繋がりを大事にし、連携しながらその人の在宅生活の支援を続けていく工夫をする。	一人暮らしの方については地域の方とどのようなつながりをもっているかなどの共有をしている。 地域の防災訓練に利用者様もいっしょに参加する事ができた。	・地域のイベントへの参加については具体的に参加されているという報告がなかった。 地域の行事はきらめきに参加してもらえるように連絡をする。 ・地域の行事に参加したという報告を運営推進会議で行うと参加したことが分かる。 ・広報誌に載せてもよい	・地域のイベントが外出等をしたことが、ご家族に伝わっていないこともあるので、連絡帳や案内を活用しながら参加をすすめていく。 ・地域行事への参加の様子も広報誌やSNSに載せて発信していく。 ・運営推進会議では継続して報告を行う。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者本人の想いを引き出し、ご利用者から行きたい場所や、やってみたいことの声をもとに臨機応変に活動を取り入れ、外出の機会を増やしていくとともに、ご利用者の想いを叶えてもらえる様にする。	想いの聞き取りをして外出を企画したりおやつ作りでは買い出しをしたり希望者でおやつを手作りしたりなどの機会を持った。 小規模の中で使用するものを地域の店舗に行き一緒に選んで購入している。	・ご利用者本人の想いを聞いて希望に沿う関わりをされていると思う。 ・地域の方を交えた会議の開催について家久町の方は参加していますがそれ以外についてはわかりません。 ・運営推進会議には区長・民生委員が参加されています。 ・ご利用者の地域のイベントへの参加について具体的に参加されているという報告がなかった。 利用者以外の近所の心配な方への関わりについての報告はなかった。 ・足腰がしっかりしていれば外に連れて行ってもらえると思う。サークルなどにも誘って欲しい。	・ご利用者本人の想いを引き出し、ご利用者からの声をもとに臨機応変に活動や外出の機会をもっていく。 ・小規模で必要なもの使うものの購入や、行ってみたいやってみたいことなど意見を出し合い計画しながら積極的に地域に向いていく機会を持つていく。 ・ご利用者のことだけではなく、地域で気になる方の事等を事例を通じて共有できる時間を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議の開催では感染拡大予防を考えて実施する。 ・ご家族から参加しやすい日の聞き取りをし、たくさんの方に参加してもらえるように工夫をする。	利用者や家族からの意見は皆で共有し改善に努めた。 運営推進会議の開催曜日や開催時間を変えて設定したがご家族の参加の増加にはつながらなかった。	・家族の参加を増やす具体的工夫がわからない。 ・運営推進会議で地域の心配な方の事例検討はされなかった。 ・きらめきの方が参加されている。それぞれのやり方はあるがやっていることに違いや格差があって話も平行線に終わるので、市も入ってレベル合わせをした方がよい。 ・面談の時にでも話ができるので市内の家族だけでなく県外の家族にも発信していくとよい。	・運営推進会議の時間帯や曜日を工夫していきながら、直接の参加促進をおこなっていく。 ・他の事業所の運営推進会議の実施方法を参考にしながら、イベントと抱き合わせにするなど参加しやすい雰囲気や設定の工夫をする。
F. 事業所の防災・災害対策	・災害福祉計画の全員の理解、把握を確認し、訓練当日も落ち着いてそれぞれに役割が果たせるように備えていく。 ・感染状況に応じて地域の方やご家族に防災訓練に参加や見学をしていただく。	災害福祉計画の全員での共有の場は持てなかったが個々に紙面での確認をする形をとった。 訓練では役割を決めて実施し、反省を踏まえながら速やかに避難できた。ご利用者も一緒に地域主催の防災訓練に参加する事ができた。	・家久町から商工高校への県道の避難路整備について引き続き要望を出していく。 ・越前市では災害時の備蓄は弱者の分のみなので自分の分は考えておいて欲しい。 ・避難訓練は地域の方と行っていけるとよい。 ・避難訓練は家族も、入っていかないといけないと思う。 ・災害が起こった時に緊急の連絡網はあるのか、家族はどうしたら良いかを分かっていると安心できる。	・家久町の協力もあり、外の段差解消等を一部修繕してもらうことができた。また、地域の防災訓練も事業所として参加し、継続してブース設置等も行っていきたい。 ・防災、災害等の情報共有や避難訓練等の見学等、ご家族にも参加してもらえる工夫をおこなっていく。